

おにはそと！ふくはうち！

はにゅうしりつとしょかん

「まめのかぞえうた」

西内 ミナミ/さく 鈴木出版 E/マ

豆の木がぐんぐん成長してできた豆を、福が来るよう元気良く食べる、楽しいかぞえうたの絵本。



「まめまきできるかな」

すとう あさえ/さく ほろぶ出版 E/ハ

今日は節分。まめをまいて、おにを追いほらう日です。まこちゃんはずめをまく練習をしますが、なかなかうまくできません。どうしたらいいのかな？



「まめまきバス」

藤本 ともひこ/作 鈴木出版 E/マ

今日は節分。なのに、町では、咳をしたかいじゅうおにが大暴れし、みんなに風邪をうつしていました。バスとねずみたちは、かいじゅうおにをやっつけようと豆を投げますが…。



「おにはそと」

せな けいこ/作 金の星社 E/オ

子どもたちに豆をぶつけられて逃げ帰った鬼たち。でも小さい鬼の「ちび」は、逃げずに子どもたちと仲良くなりました。「ちび」が人間に捕まったりと思った鬼たちは、取り返すために武器とよいを作り…。



「おばあちゃんのえほうまき」

野村 たかあき/作 校成出版社 E/オ

今日は節分です。おばあちゃんときりちゃん、恵方巻きをつくります。まずは、ほうれん草を色よくゆでて、次に、厚焼き玉子を焼いて…。



「せつぶんだまめまきだ」

桜井 信夫/作 教育画劇 E/ギ

昔、冬から春へと季節が変わる頃に、人々は豆をまき、悪い鬼を追い払うことを始めました。そんな節分の行事の由来をお話で。



「鬼といりまめ」

谷 真介/文 校成出版社 E/オ

おにがまだ山奥に住んでいた頃の、日照りが続いた年のこと。雨を降らせてくれた代わりに、鬼のもとへ嫁いだおふくは、家へ帰ってきたまらなくなり…。



「ふくはうちおにもうち」

内田 麟太郎/作 岩崎書店 E/フ

節分の夜、男が一人で酒を飲んでいると、外で「さむいよう」と声がする。だけれかと思ったら、鬼たちだった。それなら入れと男は誘い、やがて宴会がはじまった。そこへ…。



「せつぶんのひのおにいっか」

青山 友美/作 講談社 E/セ

普段はのんきに暮らしている、おにい一家の3人。ある晩、明日が節分だと思い出したおに一家は、大慌てで準備をはじめました。節分の日、人間たちが豆をまき始めると…。



「オニのサラリーマン」

富安 陽子/文 福音館書店 E/オ

赤鬼のオニガワラ・ケンは、地獄カンパニーのサラリーマン。今日の仕事は、血の池地獄の監視。血の池に浮かんでいる、亡者たちの見張りにつきましたが…。



「オニじゃないよおにぎりだよ」

シゲタ サヤカ/作 えほんの杜 E/オ

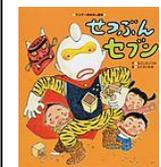
オニ3匹は、おいしいものを人間に食べさせてやろうと大量のおにぎりを作って人間の住む町へ。ところが人間たちはオニを怖がって逃げてしまふ。それをまた勘違いした3匹は…。



「せつぶんセブン」

もとした いづみ/作 世界文化社 E/セ

節分の日にやってきた「せつぶんセブン」。大豆を炒って準備したら、子どもたちといっしょに鬼のおめんづくりを始めます。ますの中に豆を入れてもらって、鬼の役と豆まきの役にわかれたら…。



「おにはそと！ふくはうち！」

いもと ようこ/文 金の星社 E/オ

2月3日は節分。「おにはそと！ふくはうち！」というかけ声とともに、家のなかそとへ豆まきをするのが一般的。では、どうして節分には豆まきをするのでしょうか？



「ようかいむらのにこにこまめまき」

たかい よしかず/作 国土社 E/ヨ

今日は節分。神社で豆まきです。あまのじゃくのようかい「じゃくじゃく」は年男なので、舞台から豆をまきます。そこへ、しちふくじんがあらわれて…。

